校長室から ひがしなら通心
（Ｈ２９年度）　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．９
平成２９年５月１２日（金）発行

ひ	とつにみんなでまとまろう！	あ	いさつができる子
が	くりょくと体力をのばそう！	い	っしょうけんめい勉強する子
し	っかりせいかつしよう！	う	んどうが好きな子
な	かよく友だちとすごそう！	え	がおでやさしい子
ら	んらん夢に向かう東奈良っ子！	お	そうじをがんばる子

毎日を「親を思う日」に

～ニューモラルＮｏ.５７３より～

明日は「母の日」です。５月の第二日曜日を「母の日」とする習慣は、百年ほど前にアメリカで始まり、日本においては戦後に定着しました。国内では、５月５日の「こどもの日」についても、法律で「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」日と定められています。

こうした機会に親へプレゼントを贈ったり、食事や旅行に招待したりする人も多いことでしょう。しかし、「親への感謝の気持ち」とは、そうした形でしか表せないものなのでしょうか。

私たちは、誰もが親から「いのち」を与えられ、この世に生を受けました。その親にも「親」があり、そのまた親にも「親」があります。私たちの「いのち」は、先祖代々の「いのちのつながり」の中で、脈々と伝えられてきたものです。

しかし、人間が生きるということは、そうして与えられた「いのち」だけでは成り立ちません。生育の過程では、必ず「どうかこの子が元気に育ち、社会の中でしっかりと生きていくことができるように」と祈りつつ、養い育ててくれた人がいたはずです。その温かい「親心」を受けた結果、私たちの今があるのです。

「身体髪膚（しんたいはっぷ）これを父母に受く、あえて毀傷（きしょう）せざるは孝の始めなり」（『孝経（こうきょう）』）というように、自分自身を大切にすることは、親孝行の第一歩です。何より忘れてはならないことは「親に安心を与える」という心がけです。親の心を思い、報告や相談をこまめにすることも、一つの方法といえますが、親がすでに亡くなっている場合などでも「親が安心するような生き方ができているかどうか」を日々、自分自身に問い、生き方を正していくことはできるのではないでしょうか。

私たちは、毎日を「親を思う日」として、感謝の気持ちを忘れずに過ごしたいものです。それは、自分自身がしっかりと人生を歩むうえでも大切なことであるのです。

・身体髪膚：身体と髪と皮膚、すなわち身体全部
・毀傷：そこないきずつけること

しつけ三原則の実践を

１．あいさつ

「あいさつは人と人を結ぶ黄金の鎖」

２．返事

「ハイ」は「拝」という字で相手を敬う、認めることです。
「ハイ」という返事は、相手を認め敬愛の心を表しているわけです。
だからこそ、「ハイ」という明るい一声が大切なのです。

３．後始末

人や家庭を見るときのチェックポイントでもあります。後始末のできない人は、だらしない人と見られ、人の信用を得ることはできません。脱いだ靴はそろえる、傘は丸めて立てる、電灯はつけっぱなしにしないなど、みんな後始末です。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」　ロン･クラーク　草思社

ルール５　勝っても自慢しない、負けても怒ったりしない

もし君が何かで勝ったりうまくやったりしても、自慢しないこと。もし負けても、怒った態度をとらないこと。「わざと負けてやったんだよ」などと言うのは、弱さのあらわれだ。

●自慢をする人は、誰からもよく思われない。もし君に得意なことがあるなら、自信は持っていいが、自慢はしないほうがいい。負けたときは、こんなふうに言ってみよう。「試合、楽しかったよ。また君と勝負するのを楽しみにしているよ」大切なのは、ベストをつくして楽しむことで、負けても言い訳をしないことだ。